第２学年　国語科学習指導案

【１校時】児　童　２年１組　２４名
指導者　八木橋　智子

１　単元名　　だいじなことばに気をつけて読み、分かったことを知らせよう
「ロボット」（光村図書２年下）

２　単元の構想

児童の実態

・２年生１学期に「たんぽぽのちえ」、また２学期最初に「どうぶつ園のじゅうい」の２つの説明文を学習し、主に時間を順序立てて説明することの分かりやすさを学んできた。また、「あったらいいなこんなもの」の学習では、自分の生活に役立ちそうな便利な道具や生活を楽しくしてくれるような道具を考え、友達と聞き合う活動をした。これらの学習を踏まえ、本単元ではロボットについて書かれた本を読み、分かったことを伝え合う学習を行う。
・アンケートの結果、聞き合いに関する意識は高く、友達といろいろな話題で聞き合うことを楽しみにしている児童は約８０％であった。しかし、話をつなげていくことが難しい児童も多く、聞き合いが長続きしないことが課題である。また、相手の話をよく聞き、質問をして深めたり、相手の意見に反応したり、感想を述べたりする力が弱い。
・プレテストの結果、「はじめ」「中」「おわり」の構成を理解している児童は４１％、「おわり」には、「筆者の考えが書かれている」と答えた児童は３７％であった。この結果から説明文の構造について理解している児童がまだまだ少ないことが分かった。

単元の目標

（１）知識・技能
○読書に親しみ、いろいろな本があることを理解することができる。（⑶エ）
（２）思考力・判断力・表現力等
◎文章の内容と自分の体験を結び付けて、感想をもつことができる。（C⑴オ）
○文章を読んで、感じたことや分かったことを共有することができる。（C⑴カ）
（３）学びに向かう力・人間性など
○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書し、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①読書に親しみ、いろいろな本があることを理解している。（⑶エ）	①文章の内容と自分の体験を結び付けて、感想をもっている。（C⑴オ） ②文章を読んで、感じたことや分かったことを共有している。（C（1）カ）	①文章を読んで、感じたことや分かったことを進んで共有し、学習の見通しをもって本を読み、分かったことを説明しようとしている。

学習材の選定と研究との関連

中心学習材「ロボット」（光村図書２年下）

学習材の特性	個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実
○商業施設や飲食店をはじめ、家庭内でもお掃除ロボットなど人の代わりになって働くロボットを目にする機会が増えてきており、児童にとって興味や関心をもちやすい題材といえる。 ○本学習材は、「はじめ」「中」「おわり」が「話題提示・問い」「事例」「筆者の考え」の構成になっている典型的な尾括型の説明文である。児童はこの構成を本単元で初めて学習する。 ○「どんなロボットが」「どんな時に助けてくれるのか」という２つの問いに対する答えは何かを考えさせることで、大事な文や言葉や文を選び出す資質・能力を高められる学習材である。	・事例の部分で紹介されている各ロボットの「働く場所」「仕事」「どんな時に助けてくれるのか」について、一覧表にまとめる活動をすることで、大事な文や言葉を捉えやすくさせる。（個別最適な学び） ・本や図鑑・インターネットなどの資料を充実させることで「もっとほかのロボットも調べてみたい」という思いをもたせる。また、ＩＣＴ端末を活用し、広く調べられるようにする。（個別最適な学び） ・選んだロボットを種類別（人の代替型・人との共生型・命を助けるタイプなど）にグループに分け、どんな面で我々の役に立っているかをまとめ、発表する活動をすることで、ロボットについての理解を深めたことをもとに感想をもち、伝えられるようにする。 （協働的な学び）

言語活動

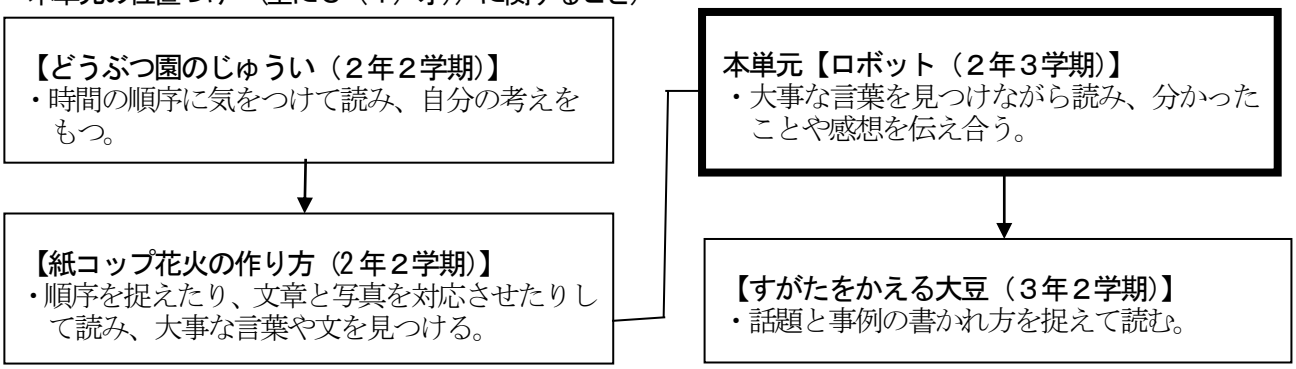
言語活動：学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本など事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことなどや考えたことを述べる活動。（言語活動例ア）
特　　徴：ロボットと人間の関わりについて考えながら、「人を助けるロボット」についてよく分かったことを伝え合う。さらに関連図書を読むことで、様々な分野へと児童の視野を広げていくことにもつながる。

聞き合う活動

・日常生活でどんなロボットが活躍しているか。
・教科書で紹介されている３つのロボットの中で、自分が一番「すごいな」と思ったものはどれか。
・ロボットが働くからこそのよさは何か。
・調べた中で、自分が一番興味をもったロボットはどんなロボットか。

３　学習指導計画（１２時間扱い）

本単元の位置づけ　（主にC（１）オ））に関すること）



学習過程	時間	主な学習活動 個個別最適　協協働的	教師の関わり・☆評価【方法】	主な聞き合う活動
見通す（２）	①	○ロボットについて知っていることを出し合ったり、文章の内容を予想したりする。協	・教科書の挿絵にあるお掃除ロボットや犬のロボットのほかにどんなロボットを知っているかを聞く。 ・アニメや漫画に出てくる人型ロボットではなく、知能化した機械システム（人を助けてくれる賢い機械）について考えていくことを確認し、身の回りでどんなことが機械化され、まるで人のように動き我々の生活を便利にしてくれているかを考える。	日常生活でどんなロボットが活躍しているかを考え、聞き合う。
	②	○説明的文章に関する既習事項を確認し、大事な言葉に気をつけて読んでいくことを知る。個	・これまで学習してきた説明文の構成(はじめ・中・おわり)や「問い」「答え」大事な言葉（このように）等について復習し、本単元の構成について考える。	
		○「ロボット」本文を読み、学習の見通しをもつ。	・学習計画をたて、単元のゴールを示す。 ・新出漢字を確認し、音読練習をする。 ・並行読書について確かめる。	
		だいじなことばに気をつけて読み、分かったことを知らせよう。		
学ぶ	③	○初発の感想を書き、聞き合う。協	・教科書に出てきたロボットから、一番心に残ったロボットについて感想を書き、グループで聞き合う。	３つのロボットから「すごいな」「助かるな」と思ったものはどれか、またその理由を聞き合う。
	④	○「問い」の文に着目し、文章の組み立てについて確かめる。個	・はじめ・中・終わりにはそれぞれ「話題提示・問い」「例」「筆者のまとめ」が書かれてあることを確かめる。	
	⑤ ⑥ ⑦	○「中」の事例を読む。個 協	・二つの問いに対する答えを見つけ、一覧表に整理する。 ・何をして助けてくれるのかを押さえ、ロボットのどんな点が賢いと思うか考える。	それぞれのロボットの賢いなと思うところを聞き合う。

学ぶ（6）	⑧本時	○ロボットのよさについて読んだことをもとに、自分の感想をもつ。協	・筆者はどうしてこの順番で事例を紹介したのかを考える。身の回りで活躍するものから、人が踏み込めないエリアで活躍するロボットまで、たくさんのロボットが活躍していることを押さえる。 ・これらの仕事を「人が行う」ことと「ロボットが行う」ことの違いは何か、ロボットが働くからこそのよさは何かを考える。 ［思考・判断・表現①］ ☆文章の内容と自分の体験を結び付けて、感想をもつことができる。（C⑴オ）	ロボットが働くからこそのよさは何か考え、聞き合う。
広げる（4）	⑨	○ほかにどんなロボットが活躍しているかを調べ、紹介したいロボットを選ぶ。個	・ロボットについて書かれた本や図鑑だけでなく、必要に応じて家庭の本やインターネットを利用して調べさせる。 ・P97 もっと読もうを読み、「くれます」という言葉に着目して、説明の仕方を考える。 ・ロボットの特徴を説明するのに大事な言葉を見つけて、メモをする。 ［知識・技能］ ☆読書に親しみ、いろいろな本があることを理解している。（⑶エ）	
	⑩	○紹介シートを作成し、紹介の練習をする。個	・事例の学習の中で出てきた説明の順番にそって紹介できるよう、ロイロノートを使って学習シートにまとめる。 ・説明の練習をする。	
	⑪	○選んだロボットについて友達に紹介する。協	・グループでシートを共有し、紹介し合う。 ・友達の話を聞いていいなと思ったところを聞き合う。 ・個人の紹介シートを全体で共有し、たくさんのロボットに助けられていることを知る。 ［思考・判断・表現①］ ☆文章を読んで、感じたことや分かったことを共有している。（C（1）カ） ［主体的に学習に取り組む態度①］ ☆文章を読んで、感じたことや分かったことを選んで進んで共有し、学習の見通しをもって本を読み、分かったことを説明しようとしている。 【観察】	それぞれが選んだロボットの紹介のよいところについて聞き合う。
	⑫	○単元の振り返りをする。	・P95 ふりかえろうの３観点で学習を振り返り、感想を聞き合う。 ・本単元で発揮した資質・能力を振り返る。	学習後の感想について聞き合う。

４　本時の指導（８／１２）

（１）目標

筆者の考える「困っているときに助けてくれるロボット」について、事例と結び付けながら詳しく読み、ロボットのよさや、説明の仕方の工夫について捉え、考えをもつことができる。（C（１）オ）

（２）展開

段階	学習活動 個個別最適　協協働的	時間	学習内容	教師の関わり ☆評価【方法】
導入	１　前時の学習を想起する。 ２　課題を確認する。 ロボットがしごとをするよさを考えよう。	２	○「中」で捉えてきた事例の内容について確かめること。	・同じ構成で説明されてきた３つの事例について表をもとに振り返り、問い１に対する答えと問２に対する答えを確認する。
展開	３　課題を解決する。 （１）３つの事例の順序について考える。	５	○３つの事例がどんな順で紹介されているかを考えること。	**〈学びを深める聞き合う活動〉** ・「じどう車くらべ」や「うみのかくれんぼ」の説明文をとりあげ、事例の順序を考えさせる。ロボットも身近なものから遠くの場所で活躍するものへという順番で説明されていることに気付かせる。
	（２）ロボットが行うよさについて互いの考えを聞き合う。 個→協 ① 宅配ロボットチーム A：ロボットが働いた方が助かると思います。わけは、時間通りに正確に配達できるからです。人だと車の渋滞で遅くなったり、ガソリン代もかかったりするからです。 B：ネットで買い物する人が増えたから、荷物を届けなきゃならない回数も増えているので、何回も行けるからロボットのほうがいいと思います。 ② 説明ロボットチーム A：人だとはずかしくてなかなか聞けないこともあるけど、ロボットだと何でも聞ける楽しさがあると思います。 B：お客さんが少ないとき、人のガイドさんだと、ひまになっちゃうけど、ロボットだとずっとそこにいてもいいし、カメラなどがついていると防犯カメラのように見守ったりできるから便利だと思います。 ③ ドローンチーム A：人が行けない場所や行ったら危ないところでも、ドローンで撮影するとすぐ見つけてその場所にすぐに助けに行くことができるから、命が助かりやすいと思います。 B：人が確かめに行くと、時間もかかるし、違うところに行ってしまうかもしれないし、熊が出たりして探しに行った人のほうが危ないときもあるからドローンのようなロボットは便利だと思います。	15	○その仕事をロボットが行うよさについて、中心となる語や文をもとにして考えること。	・あらかじめ自分がすごいと思ったロボットを選び、ロボットが働くよさを考え、まとめておく。グループを作り、自分の考えを聞き合わせる。 ・自分の経験と結び付けながら、「ロボットだからこそ」のよさについて聞き合いをさせることで、本時のねらいを達成できるようにする。
	（３）グループで聞き合ったことをもとに、全体で学びを深める。協	10	○人間の仕事を助けてくれるだけでなく「人間ができないこともロボットはできる」をおさえること。	［思考・判断・表現①］ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 （C(1)オ） 【発言・ノート】
	（４）筆者のメッセージについて考え、本時のまとめをする。	８		
終末	４　学習の振り返りをする。 ・ロボットがしごとをするよさについて、考えたこともなかったけど、みんなと聞き合いして、ロボットってすごいなと思いました。これからももっとロボットについて調べたいと思います。	５	○本時に学んだことや聞き合いをしてよかったことを振り返ること。	**〈学びを見つめる振り返り〉** ・本時の学習を通して、納得したことや、聞き合いをしてよく分かったことについて振り返るようにする。
	５　次時の学習を確かめる。			